

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
家庭基礎	[家庭]

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修単位	2単位
教科書	家庭基礎（実教出版）
副教材	家庭基礎学習ノート（実教出版）

科目目標
生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

学期	考査	単元名（考査範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	期末考査	オリエンテーション	家庭基礎を学ぶにあたって、学習の意義や内容、情報収集などの学習方法、評価の方法を知る。			
		第1章 これからの人生について考えてみよう	・人生をデザインするうえで必要な準備を考え、シミュレーションし、生活設計を考える。	○	○	○
		第2章 自分らしい生き方と家族 1 自立と共生 2 ライフキャリア 3 共に生きる家族 4 家族に関する法律	・青年期の特徴について学ぶ。 ・働く意義とどのような仕事で働きたいかを考える。 ＜SDGs 8 17＞ ・家族が抱える問題を踏まえて、家族を支えるしくみについて具体的に考える。＜SDGs 5＞ ・家族に関する法律の資料を見ながら考えをまとめて話し合う。	○ ○	○ ○	○ ○
		第3章 子どもとかかわる 1 子どもとは 2 子どもの発達 3 子どもの生活 4 子どもをはぐくむ 5 子どものための社会福祉	・青年期の健康を学ぶことで、次世代を担う子どもを育て、育んでいくことの責任感を養う。 ・子どものからだの成長のようすを学ぶ。 ・基本的生活習慣や社会的生活習慣の身に付き方を学ぶ。 ・食生活や衣生活、安全管理について学び、子どもとかかわれるようにする。 ・絵本作りや読み聞かせを通して子どもの遊びの意義や課題について考える。 ・子育てに関わる社会的課題について知り、どのようなサポートが必要とされているのか考える。＜SDGs 1 4＞	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
		第6章 食生活をつくる 1 日本の食文化の形成 2 私たちの食生活 3 栄養と食品のかかわり 4 食品の選び方と安全 5 食事の計画と調理 6 これからの食生活を考える	・日本の食文化形成を知り、郷土料理について調べる。 ・食事調査を通して、各自の食生活の問題点に気づく。 ・食品ごとに含まれる栄養素を学び、バランスの良い食事について考える。 ・旬の食材を考え、旬の時期がなぜ良いか学ぶ。 ・食品衛生について学ぶ。 ・食事摂取基準、食品群別摂取量などを用い、家族の献立作成を行う。 ・調理を通して、基礎的な技術を身につけ、食事マナーを実践する。 ・食品の自給率や食に関する環境問題、環境に配慮した食生活、日本の食料自給率について考える。 ＜SDGs 14 15＞	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
2学期	期末考査					

3学期		第7章 衣生活をつくる 1 人と衣服のかかわり 2 衣服の素材の種類と特徴 3 衣服の選択から管理まで 4 持続可能な衣生活をつくる 5 衣服の構造・デザイン	・衣服が持つ機能や安全性について学ぶ。 ・快適な衣服の特徴や機能について考える。 ・衣服の入手から処分までの流れを学び、衣生活の計画を考える。 ・環境に配慮した衣生活について世界の動向を学び、自分たちができることを考える。＜SDG s <u>12</u>＞ ・洋服と和服の違いを考える。	○	○	
		第8章 住生活をつくる 1 人間と住まい 2 住まいの文化 3 住まいを計画する 4 健康に配慮した快適な室内環境 5 安全な住まい 6 持続可能な住まいづくり	・生活と住まい、気候風土と住まいの関係、そこでの人間の営みとの関係を考える。 ・現代の暮らしに生かすことのできる和の住文化をまとめる。 ・快適な住まい方を考え、平面計画を立てる。 ・室内環境と健康のかかわりを考える。 ・災害情報の入手方法、安全への備えとして必要なことを考える。 ・住まいとエネルギー、まちづくりなどの観点から、持続可能な住まいとは何か考える。＜SDG s <u>7</u> <u>11</u>＞	○	○	○
	学年末考査	第4章 高齢者とかかわる 1 高齢社会に生きる 2 高齢者を知る 3 高齢者の自立を支える 4 高齢社会を支えるしくみ	・高齢社会の現状を知り、身近な問題としてとらえる。 ・高齢者の生活場面を体験する。 ・高齢期の生活を健康に過ごすための心がけについて考える。 ・介護をめぐる問題の解決にはどのようなことが必要か考える。	○	○	○
		第5章 社会とかかわる 1 支えあって生きる 2 共生社会を生きる	・社会保障制度のしくみを踏まえて将来に向けての課題を考える。 ・ボランティア活動や地域社会でのさまざまな活動の意義について考える。	○	○	
		第9章 消費行動を考える 1 消費行動と意思決定 2 消費生活の現状と課題 3 消費者の権利の責任 4 ライフスタイルと環境	・主体的な消費行動について多角的に考える。 ・契約、多様な販売方法や支払い方法について学ぶ。 ・問題商法による被害を未然に防ぎ、早期解決する方法を考える。 ・消費者被害の事例を調べ、消費者の権利と責任を考える。 ・持続可能な社会の実現に向けた消費行動について考える。＜SDG s <u>12</u>＞	○	○	○
		第10章 経済的に自立する 1 暮らしと経済 2 将来のライフプランニング	・収入と収支にはどのような項目があるか考える。 ・金融商品の特徴と選択基準を学ぶ。	○	○	
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 ・生活設計、1年間の復習	・家庭基礎の学習を生かして自分らしい生き方を設計する。		○	

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会の関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それにかかわる技能を身につけている。 【評価の対象】 宿題、課題、レポート、定期考査	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する能力を身につけている。 【評価の対象】 レポート、作品、定期考査	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。 【評価の対象】 ・学習活動への参加のしかたや態度 ・実験、実習時の様子 ・レポートや作品等の提出状況

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
授業へ取り組む態度やノート、レポート、課題等の提出状況、定期考査の成績などで評価します。 授業を受ける際の注意事項 （１） 授業や実習の取り組み、態度（出席状況や忘れ物）を評価します。 （２） 学期ごとに定期考査の成績と平常点で評価します。 （３） 講義は原則として教室で行います。授業によって被服実習室、調理実習室で行う場合もあります。 （４） 課題やレポート、作品等の提出期限を守ること。 （５） 2,000 円程度の実習費が必要です（一括徴収金から徴収します）。 ※ このシラバスは、年度当初の年間計画に基づいて作成されています。よって学習内容の定着度によっては、学習計画の内容や進捗等が変更になることがあります。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
家庭基礎	[家庭]

履修学科	総合学科
履修学年	第1学年
履修単位	2単位
教科書	家庭基礎（実教出版）
副教材	家庭基礎学習ノート（実教出版）

科目目標
生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

学期	考査	単元名（考査範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	期末考査	オリエンテーション	家庭基礎を学ぶにあたって、学習の意義や内容、情報収集などの学習方法、評価の方法を知る。			
		第1章 これからの人生について考えてみよう	・人生をデザインするうえで必要な準備を考え、シミュレーションし、生活設計を考える。	○	○	○
		第2章 自分らしい生き方と家族 1 自立と共生 2 ライフキャリア 3 共に生きる家族 4 家族に関する法律	・青年期の特徴について学ぶ。 ・働く意義とどのような仕事で働きたいかを考える。 <SDGs 8 17> ・家族が抱える問題を踏まえて、家族を支えるしくみについて具体的に考える。<SDGs 5> ・家族に関する法律の資料を見ながら考えをまとめて話し合う。	○ ○	○ ○	○ ○
		第3章 子どもとかかわる 1 子どもとは 2 子どもの発達 3 子どもの生活 4 子どもをはぐくむ 5 子どものための社会福祉	・青年期の健康を学ぶことで、次世代を担う子どもを育て、育んでいくことの責任感を養う。 ・子どものからだの成長のようすを学ぶ。 ・基本的生活習慣や社会的生活習慣の身に付き方を学ぶ。 ・食生活や衣生活、安全管理について学び、子どもとかかわれるようにする。 ・絵本作りや読み聞かせを通して子どもの遊びの意義や課題について考える。 ・子育てに関わる社会的課題について知り、どのようなサポートが必要とされているのかを考える。<SDGs 1 4>	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
		第6章 食生活をつくる 1 日本の食文化の形成 2 私たちの食生活 3 栄養と食品のかかわり 4 食品の選び方と安全 5 食事の計画と調理 6 これからの食生活を考える	・日本の食文化形成を知り、郷土料理について調べる。 ・食事調査を通して、各自の食生活の問題点に気づく。 ・食品ごとに含まれる栄養素を学び、バランスの良い食事について考える。 ・旬の食材を考え、旬の時期がなぜ良いか学ぶ。 ・食品衛生について学ぶ。 ・食事摂取基準、食品群別摂取量などを用い、家族の献立作成を行う。 ・調理を通して、基礎的な技術を身につけ、食事マナーを実践する。 ・食品の自給率や食に関する環境問題、環境に配慮した食生活、日本の食料自給率について考える。 <SDGs 14 15>	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○

3学期		第7章 衣生活をつくる 1 人と衣服のかかわり 2 衣服の素材の種類と特徴 3 衣服の選択から管理まで 4 持続可能な衣生活をつくる 5 衣服の構造・デザイン	・衣服が持つ機能や安全性について学ぶ。 ・快適な衣服の特徴や機能について考える。 ・衣服の入手から処分までの流れを学び、衣生活の計画を考える。 ・環境に配慮した衣生活について世界の動向を学び、自分たちができることを考える。＜SDG s <u>12</u> ＞ ・洋服と和服の違いを考える。	○	○	
		第8章 住生活をつくる 1 人間と住まい 2 住まいの文化 3 住まいを計画する 4 健康に配慮した快適な室内環境 5 安全な住まい 6 持続可能な住まいづくり	・生活と住まい、気候風土と住まいの関係、そこでの人間の営みとの関係を考える。 ・現代の暮らしに生かすことのできる和の住文化をまとめる。 ・快適な住まい方を考え、平面計画を立てる。 ・室内環境と健康のかかわりを考える。 ・災害情報の入手方法、安全への備えとして必要なことを考える。 ・住まいとエネルギー、まちづくりなどの観点から、持続可能な住まいとは何か考える。＜SDG s <u>7</u> <u>11</u> ＞	○	○	○
	学年末考査	第4章 高齢者とかかわる 1 高齢社会に生きる 2 高齢者を知る 3 高齢者の自立を支える 4 高齢社会を支えるしくみ	・高齢社会の現状を知り、身近な問題としてとらえる。 ・高齢者の生活場면을体験する。 ・高齢期の生活を健康に過ごすための心がけについて考える。 ・介護をめぐる問題の解決にはどのようなことが必要か考える。	○	○	○
		第5章 社会とかかわる 1 支えあって生きる 2 共生社会を生きる	・社会保障制度のしくみを踏まえて将来に向けての課題を考える。 ・ボランティア活動や地域社会でのさまざまな活動の意義について考える。	○	○	
		第9章 消費行動を考える 1 消費行動と意思決定 2 消費生活の現状と課題 3 消費者の権利の責任 4 ライフスタイルと環境	・主体的な消費行動について多角的に考える。 ・契約、多様な販売方法や支払い方法について学ぶ。 ・問題商法による被害を未然に防ぎ、早期解決する方法を考える。 ・消費者被害の事例を調べ、消費者の権利と責任を考える。 ・持続可能な社会の実現に向けた消費行動について考える。＜SDG s <u>12</u> ＞	○	○	○
		第10章 経済的に自立する 1 暮らしと経済 2 将来のライフプランニング	・収入と収支にはどのような項目があるか考える。 ・金融商品の特徴と選択基準を学ぶ。	○	○	
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 ・生活設計，1年間の復習	・家庭基礎の学習を生かして自分らしい生き方を設計する。		○	

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会の関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それにかかわる技能を身につけている。 【評価の対象】 宿題、課題、レポート、定期考査	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する能力を身につけている。 【評価の対象】 レポート、作品、定期考査	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。 【評価の対象】 ・学習活動への参加のしかたや態度 ・実験、実習時の様子 ・レポートや作品等の提出状況

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
授業へ取り組む態度やノート、レポート、課題等の提出状況、定期考査の成績などで評価します。 授業を受ける際の注意事項 （１） 授業や実習の取り組み、態度（出席状況や忘れ物）を評価します。 （２） 学期ごとに定期考査の成績と平常点で評価します。 （３） 講義は原則として教室で行います。授業によって被服実習室、調理実習室で行う場合もあります。 （４） 課題やレポート、作品等の提出期限を守ること。 （５） 2,000 円程度の実習費が必要です（一括徴収金から徴収します）。 ※ このシラバスは、年度当初の年間計画に基づいて作成されています。よって学習内容の定着度によっては、学習計画の内容や進捗等が変更になることがあります。

科目目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ファッションの造形を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				①	②	③
1 学期	4	・オリエンテーション ・講義・実習 「基礎縫い」 ・講義・実習 「巾着袋」 SDGs 9, 12	・実習内容や授業の進め方を説明します。 ・被服製作に関する、基礎的・基本的な知識を習得します ・デザインの基礎について学習します。 ・日本の服飾の伝統技法について学習します ・実習 ①裁断・印つけ ②本縫い ③仕上げ ※ 被服製作技術検定 4 級受験	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
	5					
	6	・講義・実習 SDGs 9, 12 「ショートパンツ」	・洋服の構成について理解します。 ・実習 ①採寸 ②裁断・印つけ ③本縫い ④仕上げ	○ ○	○ ○	○ ○
	期末考査			○	○	
	7	・講義・実習 SDGs 9, 12 「じんべい」	※ 被服製作技術検定 3 級受験 ・和服の構成について理解します。 ・実習 ①採寸 ②裁断・印つけ ③ひも作り ④背縫い ④すそ縫い ⑤袖作り	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
2 学期	9		⑥衿作り ⑦衿つけ ⑧袖付け ⑨わき縫い ⑩縫いしろ始末	○	○	○
	10		⑨仕上げ ⑩模擬試験 ※ 被服製作技術検定 2 級（和服）受験	○ ○	○ ○	○ ○
	11			○	○	○
	期末考査			○	○	
	12	・講義・実習 SDGs 9, 12 「女児服」	・女児服の構成について理解します。 ・実習 ①製図 ②裁断・印つけ ③本縫い	○ ○	○ ○	○ ○
3 学期	1			○	○	○
	2					
	学年末考査			○	○	
	3		④縫いしろ始末 ⑤ 仕上げ	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【評価の対象】 - 作品 - 定期考査	- 被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。 【評価の対象】 - 作品完成度、創意工夫 - 定期考査	- 衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 【評価の対象】 - 授業への参加態度 - 作品の提出状況や完成度、創意工夫

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
【評価方法】 - 授業や実習への取り組み、検定への取り組み、態度（出席状況、忘れ物）を総合的に評価します。 - 作品が期限内に提出されない場合は、該当学期の成績は欠点となる場合があります。 【裁縫道具について】 - 各自、4月中旬までに準備してください（小中学校で使用したもので可）。 糸切りばさみ、ピンクッション（針山）、まち針、リッパー、裁縫用具箱 など 【実習について】 - 講義、実習ともに被服実習室で行います。必要な教材は指定された場所に保管してください。 【検定について】 - 技術の定着と向上を図るために、家庭科技術検定被服製作4級～2級を受験予定です。 【教材費について】 11,000円の教材費が必要です（内訳：基礎縫い用の布代、型紙代、布代、検定受験料など）。 → 一括徴収金で徴収します。 【学習のすすめ方について】 - 授業ごとに示される、学習計画に従って時間内に指示された内容まで進めることができるよう、時間配分を考えて実習に臨みましょう。 このシラバスは、年度当初の年間計画を基に作成されたものです。よって学習した内容の定着度によっては、学習計画の内容や進度等が変更されることがあります。 今年度の学校行事、生徒数、実習教室の状況等により、予告なく学習内容の入れ替え、変更等が行われる場合もあります。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
フードデザイン	[家庭]

履修学科	総合学科
履修学年	第2学年
履修単位	3単位
教科書	フードデザイン (実教出版)
副教材	家庭科問題集 基礎編, 食物編 (全国高等学校家庭科教育振興会)

科目目標
家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				①	②	③
1学期	4	フードデザインを学ぶにあたって	・学習方法や学習内容・教材・提出物・評価、検定の実施内容等を説明	○		
		4章 調理の基本 1節 調理とおいしさ 2節 調理操作 3節 調味操作	・調理は食品を食事の目的に合うようにつくりかえることを理解する。 ・基本的な調理操作の方法や意味調理器具の特徴について理解する。	○ ○	○	
	5	3章 食品の特徴・表示・安全 3節 食品の選択と表示 4節 食品の衛生と安全	・食品に記載された情報の正しい見方を知り、食品選択に役立てることができるようになる。 ・食中毒の危険性について知り、正しい予防ができるようになる。 ・基本的な調理技法を学習し、食物調理技術検定4級を受検する。	○ ○ ○	○ ○	○
		6				
	期末考査		1学期の学習内容を範囲とする。	○	○	○
	7	1章 食生活と健康 1節 食事の意義と役割 2節 食を取り巻く現状	・食べるための様々な意義を理解し、食事と団らんの重要性を知る。 ・各国の食料自給率や食品ロスの実状を通して、日本における食料生産の問題点を考えさせる。 ＜SDGs 2 12＞ ・地球環境の保全、食物連鎖と食生活との関わりについて理解し、環境保全、資源の有効活用を意識を高め、日常生活を見直させる。 ＜SDGs 7 14 15＞	○	○ ○ ○	○ ○

2 学 期	9	2章 栄養素のはたらきと食事計画	・人間が食品の摂取により栄養をどのように取り入れていくか、食物が体内でどのように消化・吸収され、活用されていくかを理解する。 ・各種栄養素の特徴と体内ではたらき、代謝について理解する。 ・おもな調理操作を習得することにより、効率よく美味しく作ることができるようになる。 ・食物調理技術検定3級実技を受検する。 ※外部講師による調理講習	○	○	
	10	1節 からだのしくみと食べ物 2節 炭水化物 3節 脂質 4節 たんぱく質 5節 ビタミン 6節 ミネラル 7節 水・その他の物質		○	○	○
	11			○	○	
	期末考査		2学期の学習内容を範囲とする。	○	○	○
	12	8節 消化と吸収	・各種栄養素の体内での消化・吸収の過程を理解する。 ※お魚捌き方講習	○	○	
学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				①	②	③
3 学 期	1	9節 食事摂取基準と食事計画	・エネルギーや各栄養素の食事摂取基準について理解する。 ・ライフステージごとの栄養の特徴、食生活上の留意事項について理解する。 ・栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について要点が理解でき、日常食に適した献立が作成できる。	○	○	
	2	6章 フードデザイン実習 1節 献立作成 2節 日常食の献立作成 和風・洋風・中国風献立		○	○	○
		7章 食育 1節 食育と意義と推進活動	・食の問題について正しい知識を身につけ、自分なりの考えを確立する。 ・現代人の食生活を見直すために、食育の大切さを理解する。		○	○
	学年末考査		3学期の学習内容を範囲とする。	○	○	○
	3	2月の続き	・地域ごとの食育の取り組みについて学ぶ。		○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・食品の特徴を理解し、調理上の性質に関する基礎知識を身につけているか。 ・栄養素の特徴や健全な食生活を営む上での留意事項を理解しているか。 ・心身ともに健康で豊かな食生活を営むための食事のあり方について発展的技術を身につけているか。 【評価の対象】 宿題，課題，定期考査 実技テスト，実習の様子	・健康と食生活との関連を理解しているか。 ・栄養の特性を理解し、献立作成や調理技術を習得しているか。 ・自分の意見をまとめて表現できるか。 【評価の対象】 レポート，定期考査	・食生活に関心を持ち，積極的に授業に参加しているか。 ・調理実習等に積極的に取り組み，協力しながら参加しているか。 【評価の対象】 学習への参加の仕方，実験や実習時の様子，レポート

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
・毎時間の授業では、はじめに学習のめあてを示します。それを手がかりに積極的に学習しましょう。 ・授業で使用するワークシート（学習プリント・問題集）を上手に活用して、学習が確実に自分のものになるよう、より深い理解を目指して取り組みましょう。 ・授業では座学と調理等の実習を行います。忘れ物をするとその授業だけでなく、後の実習にも影響を及ぼす恐れがあります。毎時間、教科書やファイル等をきちんと持参してください。 ・この授業は一斉授業で実施します。分からない場合は授業担当者が随時指導しますので、積極的に声をかけ、授業中に重点を理解、習得できるよう努力してください。 ・実践的な学習活動を通し技術面の向上を図ります。具体的には食物調理技術検定受検があります。目標を高くもって実現に向けて大いに努力してください。以下にいくつか具体例を示します。 (1) 実技は細かい作業になります。基本を習得する努力を根気強くしてください。 (2) 時間内に実習を終えるためには、効率のよい手順があります。自己流で作業するのではなく、説明をよく聞き、手順を守って実習するようにしてください。 (3) 特に実習は自分自身で体験することが重要なので、毎回欠かさず出席するよう心がけましょう。 (4) 調理実習の際は、白衣・三角巾の準備はもちろん身の回りの衛生や室内の換気など、安全面にも十分心がけましょう。 ・このシラバスは年度当初の年間計画を基に作成されたものです。よって学習した内容の定着度によっては学習計画の内容や進度等が変更されることがあります。 ・今年度の学校行事、生徒数、実習教室の状況等により、予告なく学習内容の入れ替え、変更等が行われる場合もあります。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
生活産業情報	[家庭]

履修学科	総合学科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	生活産業情報 (実教出版)
副教材	全商ビジネス文書実務検定模擬問題集 全商情報処理検定模擬問題集(実教出版)

科目目標
家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生活産業の各分野における情報の意義や役割、情報及び情報技術を活用する方法について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 生活産業に関する課題を情報及び情報技術を活用して発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 生活産業における情報及び情報技術の活用や専門性の向上を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				①	②	③
1学期	4	・オリエンテーション	・学習の内容、方法、情報処理室の使い方、コンピュータの利用の注意事項などについて知る。	○		
		第1章 情報化の進展と生活産業 1 情報化の進展と社会	・情報化の進展に伴い生活や産業がどのように変化してきたか概要を理解する。 ・情報化の進展によって生じている問題点を知る。	○	○	
		2 生活産業における情報化の進展	・衣食住や保育、福祉などの生活産業の各分野で、情報機器・情報システム・ネットワークがどのように利用されているか知る。 ＜SDGs 9＞	○	○	○
	6	第2章 情報モラルとセキュリティ 1 情報モラルとマナー 2 情報通信ネットワークの仕組み	・ネットワーク社会におけるサイバー犯罪や問題点について学ぶ。 ・インターネットやメールを利用する際の被害の実態について具体的な事例から理解する。 ※ビジネス文書実務検定2級(速度)受験	○	○	○
	期末考査		1学期の学習内容を範囲とする。	○	○	○
	7	3 セキュリティ管理	・知的財産権について理解する。 ・有害情報をフィルタリングする方法について理解する。	○	○	

2 学期	9	第3章 コンピュータとプログラミング 1 コンピュータの基本構成 2 モデル化とシミュレーション 3 アルゴリズムとフローチャート	・情報機器の基本構成とそれぞれの機能と動作を理解する。 ・モデル化とシミュレーションの概要を理解し、具体的な活用例について学ぶ。 ・プログラミングに関する基礎的・基本的な知識を学び、簡単なアルゴリズムで表現した処理手順を実行することで、自動的に処理ができることを理解する。 ※ビジネス文書実務検定2級(文書)受験	○		
	10			○	○	○
11	○			○		
	期末考査		2 学期の学習内容を範囲とする。	○	○	○
学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				①	②	③
	12	第4章生活産業におけるコミュニケーションと情報デザイン 1 メディアの特性	・様々なメディアの特性とコミュニケーション手段の特徴を理解する。	○	○	
3 学期	1	2 コミュニケーション	・生活産業の中で消費者と企業がどのようにコミュニケーションに利用しているかを理解する。 ※情報処理検定3級受験	○	○	
	2		・情報コンテンツの作成にあたりメディアの特性を理解し、伝えたい情報を目的や対象の年齢や障害の程度などをふまえた工夫が情報デザインに求められることを理解する。 <SDG s ③>	○	○	○
	学年末考査		3 学期の学習内容を範囲とする。	○	○	○
	3	2 月の続き		○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・情報社会における情報の意義や役割について理解でき、必要な知識を身につけているか。 ・個人のプライバシーや著作権の保護、収集した情報の管理、発信に対しての責任、セキュリティ管理の重要性などについて、理解できているか。 ・情報機器や情報通信ネットワーク、アプリケーションソフト等を円滑に活用する技術を身につけ、その基本操作について技術を活用しているか。 【評価の対象】 宿題、提出物、定期考査 授業態度、実技テスト	・情報化の進展や情報社会における生活・産業の変化に課題を見つけ思考を深めているか。 ・目的に応じた適切なコンピュータの操作、アプリケーションソフトウェアの選択ができるか。 【評価の対象】 宿題、定期考査	・情報化の進展や情報の意義・役割に関心を持っているか。 ・講義、実習に積極的に取り組んでいるか。 【評価の対象】 授業への参加状況 宿題の提出状況

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
【評価方法】 ・授業や実習、検定への取り組み、態度（出席状況、忘れ物）を総合的に評価します。 ・学期ごとに、定期考査の成績 60～80％、作品点・平常点 20～40％の配分で評価を行います。 ・無断で検定を欠席の場合は、該当学期の成績は欠点とします。 【教材について】 模擬問題集・検定受験料については、一括徴収金から支出します。 【実習について】 ・講義、実習ともに情報処理室で行います。必要な教材は指定された場所に保管してください。 ・検定について、全商ビジネス文書実務検定(2・1級)を7月と11月、全商情報処理検定3級を1月に受験予定です。確実な合格とするため、休み時間や放課後を有効に活用して練習に励みましょう。 【教材費について】 ・5,500 円の教材費が必要です（内訳：模擬問題集、検定受験料 など）。→ 一括徴収金で徴収します。 【学習のすすめ方について】 ・授業ごとに示される、学習計画に従って時間内に指示された内容まで進めることができるよう、時間配分を考えて実習に臨みましょう。 ・学習はパソコンを使った実技中心になります。問題集や過去問題等で繰り返し練習を行い、技術を習得しましょう。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
保育基礎	[家庭]

履修学科	総合学科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	保育基礎（教育図書）
副教材	日本のおりがみ事典（ナツメ社）

科目目標
家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				①	②	③
1学期	4	・オリエンテーション 1章 子どもの保育 SDGs 8 1 保育の意義 2 保育の環境 3 保育の方法	・保育には、子どもの生涯の人格形成の基礎を担う重要な意義があることを理解する。 ・現代の子どもや子育て家庭を取り巻く環境の問題、多様な保育のニーズに関する課題を知り、子どもの健やかな発達のための適切な保育環境について考える。 ・発達段階の特徴と、段階に応じた保育の方法を理解する。 ・発達には順序性・連続性・方向性・相互性という一定の共通性がある一方で、個人差が大きいことを理解する。 ・愛情関係の形成過程を学び、その重要性を理解する。 ※ 第1回保育実習 ※ 保育検定4級受験	○		
	5	2章 子どもの発達 SDGs 3 1 子どもの発達の特徴 2 乳幼児の発育と発達		○	○	○
	6			○	○	○
		期末考査		○	○	
	7	3章 子どもの生活 SDGs 3 1 子どもの健康と生活 2 子どもの食事 3 子どもの衣服と寝具 4 子どもの健康と安全		○		
2学期	9		・子どもを安全に養護するためのポイントや、注意点について知る。 ・基本的生活習慣と社会的生活習慣の違いを理解し、その具体的な内容について知る。 ・近年の幼児に関する食事習慣や健康面の課題を知り、家庭や保育施設でどのようなことが求められているか考察する。 ・衣服の選択を間違えると、思わぬ事故につながることを知り、安全な衣生活について考えることができる。 ・子どもの健康を守るために、社会がどのようなサポートを行っているかを知る。 ・日本の児童観の変遷と、社会環境や法制度のしくみについて理解する。 ・障がいの有無や貧困・虐待、国籍の違いなど、多様な事情・背景をもつ家庭や子どもたちが十分な保育サービスを受けるために必要な施策を考える。 ※ 第2回保育実習 ※ 保育検定3・4級受験	○	○	○
	10			○	○	○
	11	4章 SDGs 1 1 保育にみる児童観 2 児童福祉の理念と法規・制度		○	○	○
		期末考査		○	○	
	12	5章 子どもの文化 SDGs 1 1 子どもの文化の意義 2 子どもの文化を支える場 3 子どもと遊び 4 子どもの表現活動		○	○	○
3学期	1		・子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康で豊かな生活の実現のために果たす役割や意義を理解する。 ・子どもの遊びの内容や時間・場所・仲間などが、近年の社会の変化の影響を受けて変容していることを知り、どのような課題があるか考える。 ・子どもの遊びについての課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。	○	○	○
	2				○	○
		学年末考査		○	○	
	3		・保育の学習を通して、自分自身の子どもや保育に関する考えがどう変わったか振り返り、成長を実感する。		○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身に付けている。 ・子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身に付けている。 【評価の対象】 ・定期考査 ・作品 ・レポート等	・子どもを取り巻く課題を見つけ、保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫、表現をする力を身に付けている。 【評価の対象】 ・作品完成度、創意工夫 ・定期考査 ・レポート等	・子どもの発達や保育にかかわる職業について関心をもち、地域の保育や子育て支援を通じて子どもの健やかな発達に寄与しようとする意欲的な態度を身に付けている。 【評価の対象】 ・授業、実習への参加態度 ・課題の提出状況や完成度、創意工夫等 ・レポート等 ・検定への取り組み

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
【評価方法】 ・授業や実習への取り組み、態度（出席状況、忘れ物）等を総合的に判断します。 【授業について】 ・講義、実習は看護実習室及び被服実習室で行います。 ・校外での実習の際は、指定された服装や所持品を準備し、実習相手先に迷惑がかかるような言動は厳に慎んでください。また安全面には十分気を付けること。 ・実践的な学習活動を通し技術面の向上を図ります。具体的には保育技術検定受検があります。目標を高くもって実現に向けて大いに努力してください。 （1）実技について細かい作業が必要な部門もあります。繰り返し練習が必要になりますので、休み時間や放課後、家庭学習を活用しましょう。 （2）特に実習は自分自身で体験することが重要なので、毎回欠かさず出席するよう心がけましょう。 【教材費について】 ・6,000 円の教材費が必要です（内訳：保育検定受検料・材料代、折り紙、名札製作 など）。 → 一括徴収金で徴収します。 【学習のすすめ方について】 ・授業で使用するワークシートを上手に活用して、学習内容の理解を深めましょう。 このシラバスは、年度当初の年間計画を基に作成されたものです。よって学習した内容の定着度によっては、学習計画の内容や進捗等が変更されることがあります。 今年度の学校行事、生徒数、実習教室の状況等により、予告なく学習内容の入れ替え、変更等が行われる場合もあります。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
フードデザイン	[家庭]

履修学科	総合学科
履修学年	第3学年
履修単位	3単位
教科書	フードデザイン 新訂版 (実教出版)
副教材	家庭科問題集 基礎編, 食物編 (全国高等学校家庭科教育振興会)

科目目標
家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点			
				①	②	③	④
1学期	4	2章 栄養素のはたらきと食事計画 10節 ライフステージと栄養計画	・各自及び家族の生活について、健康増進のための食生活の視点から考え、ライフステージごとの栄養上の注意点を把握する。				
	5		・様々な食品について、その特徴と調理性、加工について理解する。	○	○	○	○
	6	3章 食品の特徴・表示・安全 1節 食品の特徴と性質	・調理性について実験を通して学び、調理に生かすことができる。 ・加工食品の加工方法や種類について理解する。				
		期末考査	1学期の学習内容を範囲とする。	○	○	○	○
	7	2節 食品の選択と流通	・多様で多量の輸入食材と日本の食糧事情の現状と将来について理解する。 ・食糧自給率の低下や日本の気候風土を活かした食材の生産、流通経路等について理解する。＜SDGs 7 13＞	○	○	○	○
2学期	9	5章 料理様式とテーブルコーディネート 1節 料理様式と献立 2節 テーブルコーディネート	・日本料理、西洋料理、中国料理等それぞれの様式に応じた食卓構成と作法について知り、手順やサービス、マナーについて理解する。 ・テーブルコーディネートの特徴を知り、状況に応じたコーディネートを考え、実際に実践する。				
	10		※テーブルマナー講習	○	○	○	○
	11	6章 フードデザイン実習 1節 献立作成 供応食・行事食 世界各国の料理など	・行事食を通して日本の伝統行事の継承や伝承する能力を培う。 ・諸国の料理を知り、それぞれの国の食文化を理解し料理が作れる。				
		期末考査	2学期の学習内容を範囲とする。	○	○	○	○
			※外部講師による調理講習				

	12	テーマ設定と調理実習	・テーマにふさわしい料理の要点を理解し能率的に料理を作る。 ※お魚捌き方講習	○	○	○	○
期 3 学	1	2 学期の続き	・料理を引き立てるようなテーブルセッティングとコーディネートに必要な小物を製作する。 ※郷土料理講習	○	○	○	○
	卒業	卒業	3 学期の学習内容を範囲とする。	○	○	○	○

評価の観点 ①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③技能 ④知識・理解

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・食生活に関心を持ち、積極的に授業に参加しているか。 ・調理実習等に積極的に取り組み、協力しながら参加しているか。 【評価の対象】 学習への参加の仕方、実験や実習時の様子、レポート	・健康と食生活との関連を理解しているか。 ・栄養の特性を理解し、献立作成や調理技術を習得しているか。 ・自分の意見をまとめて表現できるか。 【評価の対象】 レポート、定期考査	・心身ともに健康で豊かな食生活を営むための食事のあり方について発展的技術を身につけているか。 【評価の対象】 実技テスト、実習の様子	・食品の特徴を理解し、調理上の性質に関する基礎知識を身につけているか。 ・栄養素の特徴や健全な食生活を営む上での留意事項を理解しているか。 【評価の対象】 宿題、課題、定期考査

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
・毎時間の授業では、はじめに学習のめあてを示します。それを手がかりに積極的に学習しましょう。 ・授業で使用するワークシート（学習プリント・問題集）を上手に活用して、学習が確実に自分のものになるよう、より深い理解を目指して取り組みましょう。 ・授業では座学と調理等の実習を行います。忘れ物をするとその授業だけでなく、後の実習にも影響を及ぼす恐れがあります。毎時間、教科書やファイル等をきちんと持参してください。 ・この授業は一斉授業で実施します。分からない場合は授業担当者が随時指導しますので、積極的に声をかけ、授業中に重点を理解、習得できるよう努力してください。 ・実践的な学習活動を通し技術面の向上を図ります。具体的には食物調理技術検定受検があります。目標を高くもって実現に向けて大いに努力してください。以下にいくつか具体例を示します。 (1) 実技は細かい作業になります。基本を習得する努力を根気強くしてください。 (2) 時間内に実習を終えるためには、効率のよい手順があります。自己流で作業するのではなく、説明をよく聞き、手順を守って実習するようにしてください。 (3) 特に実習は自分自身で体験することが重要なので、毎回欠かさず出席するよう心がけましょう。 (4) 調理実習の際は、白衣・三角巾の準備はもちろん身の回りの衛生や室内の換気など、安全面にも十分心がけましょう。 ・このシラバスは年度当初の年間計画を基に作成されたものです。よって学習した内容の定着度によっては学習計画の内容や進度等が変更されることがあります。 ・今年度の学校行事、生徒数、実習教室の状況等により、予告なく学習内容の入れ替え、変更等が行われる場合もあります。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
子ども文化	[家庭]

履修学科	総合学科
履修学年	第3学年
履修単位	2単位
教科書	子ども文化（教育図書）
副教材	日本のおりがみ事典

科目目標
家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 子供の表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 保育や子育て支援に関する課題を発見し、子供を取り巻く環境の変化に対応した保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 保育の充実を目指して自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点			
				①	②	③	④
1学期	4	第1章 子ども文化とは何だろう SDGs 1 1 子ども文化とは 2 子ども文化と歴史から見る	- 子ども文化を学ぶにあたっての学習の意義や内容・方法・評価を理解する。 - 子供が主体となって創作する遊びや歌、言葉などを総合した子供の文化の重要性を理解する。				
	5	第7章 子供の文化実習 1 子供と関わる前に 2 遊びの観察と子供理解	創作活動や製作などを取り上げて、地域の児童福祉施設、社会教育施設、児童文化施設などと連携を図り、地域の子どもとの交流を体験する。				
	6	第2章 子供と遊び SDGs12 1 遊びと発達 2 遊びの現状 3 遊びと遊具・玩具 4 遊びと伝承	- 遊びを通して子供の心身の発達、健康の保持増進がなされるなど、遊びの意義と重要性及び、遊びの種類と発達のかかわりについて理解する。 - 絵画や折紙などを用いた壁面構成、お話、絵本、紙芝居、人形劇、パネルシアターなどの創作や製作をする。 ※ 第1回 保育実習	○	○	○	○
		第3章 子供と表現活動 1 子供の表現活動の面白さ 2 造る・描く 3 言語表現活動	- 造形表現活動、言語表現活動、音楽身体表現活動、情報手段などを活用した意義を理解する。 - 児童文化財の重要性について、製作、実習、活動などの具体的な事例を通して理解する。				
		期末考査			○	○	○
2学期	7	4 歌う、踊る、演奏する 5 表現活動の実際	- 歌唱、ピアノ演奏を行う(音楽・リズム表現技術) - 折紙と描写を行う(造形表現技術) ※ 保育検定3級受験	○	○	○	○
	9	第4章 子供と文学 1 語り、紙芝居、絵本 2 児童文学 3 アニメーション	- 絵本には、多種多様なものがあるが、一人ひとりの興味・関心にあった選択が必要であることを理解させ、読み聞かせができるようにする。 - 紙芝居の効果的な演じ方抜き方などを理解する。 - 保育検定を、より高度に学習する。 - 童話等短文の読み聞かせ、紙芝居の実演を行う。(言語表現技術) - 乳幼児の世話(抱っこ、授乳、検温等、衣類の着脱)を行う(家庭看護技術) ※ 第2回 保育実習				
	10						
	11	SDGs 1 第5章 現代の子供の生活と文化 1 テレビ、キャラクター、ゲーム	現代の商品化された子どもの遊びにも触れ、社会の変化に伴い、子どもの遊びの環境が変化する中でのそれらの役割や問題について考える。	○	○	○	○
		期末考査			○		○
	12	2 子供と年中行事	子どもにとって有効な活用方法について考える。	○	○	○	○

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
生活産業情報	[家庭]

履修学科	総合学科
履修学年	第3学年
履修単位	2単位
教科書	生活産業情報（実教出版）
副教材	全商ビジネス文書実務検定模擬問題集 全商情報処理検定模擬問題集(実教出版)

科目目標
家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生活産業の各分野における情報の意義や役割、情報及び情報技術を活用する方法について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 生活産業に関する課題を情報及び情報技術を活用して発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 生活産業における情報及び情報技術の活用や専門性の向上を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点			
				①	②	③	④
1学期	4	・オリエンテーション SDGs 9	・学習の内容、方法、情報処理室の使い方、コンピュータの利用の注意事項などについて知る。				
	5	第5章 情報通信ネットワーク 1 情報通信ネットワークのしくみ	・広く利用されているインターネットのしくみを理解する。				
	6	2 通信ネットワークの利用 第6章 情報の処理・分析・発信 1 日本語ワードプロセッサの利用	・インターネットを利用した情報収集の操作方法を身に付ける。 ・電子メールを活用した、情報を送受信するための基本操作を身に付ける。 ・日本語ワードプロセッサの概要について理解し、操作方法を習得する。 ・日本語ワードプロセッサを生活の各場面で活用できる。 ※ビジネス文書実務検定1級(文書)受験	○	○	○	○
		期末考査					○
	7	3 セキュリティ管理	・消費者のニーズを的確に把握し、的確な商品やサービスを提供するために様々な情報機器やネットワークを利用した情報の活用が行われていることを知る。				
2学期	9	第3章 生活産業における情報活用 1 生活産業における情報活用の意義	・生活産業において、CAD/CAMシステム、シミュレーションシステム、データベースシステムなどがどのような方法で活用されているのかを理解する。 ※ビジネス文書実務検定1級(文書)受験	○	○	○	○
	10	2 生活産業における情報活用の実際					
	11						
		期末考査					○
	12	第4章 情報機器のしくみ 1 コンピュータのしくみ	・コンピュータの基本的な構成を理解する。 ・入出力装置および補助記憶装置のはたらきと、コンピュータと周辺機器をつなぐインターフェースについて理解する、	○	○	○	○

3 学期	1	2 ハードウェア 3 ソフトウェア	・ハードウェア」とソフトウェアの関係 やOSの役割について理解する。 ・情報の収集、処理、分析、発信など、 作業内容に合ったアプリケーションが あることを理解する。 ※情報処理検定(ビジネス情報)2級受験	○	○	○	○
	卒業考查						○

評価の観点 ①関心・意欲・態度

②思考・判断・表現

③技能

④知識・理解

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・情報化の進展や情報の意義・役割に関心をもっているか。 ・講義、実習に積極的に取り組んでいるか。	・情報化の進展や情報社会における生活・産業の変化に課題を見つけ思考を深めているか。 ・目的に応じた適切なコンピュータの操作、アプリケーションソフトウェアの選択ができるか。	・情報機器や情報通信ネットワーク、アプリケーションソフト等を円滑に活用する技術を身に付け、その基本操作について技術を活用しているか。	・情報社会における情報の意義や役割について理解でき、必要な知識を身に付けているか。 ・個人のプライバシーや著作権の保護、収集した情報の管理、発信に対しての責任、セキュリティ管理の重要性などについて、理解できているか。
【評価の対象】 ・授業への参加態度 ・検定への取り組み ・作品の提出状況や完成度、創意工夫	【評価の対象】 ・定期考查 ・作品完成度、創意工夫	【評価の対象】 ・作品完成度、創意工夫	【評価の対象】 ・定期考查 ・小テスト ・作品

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
【評価方法】 ・授業や実習、検定への取り組み、態度（出席状況、忘れ物）を総合的に評価します。 ・学期ごとに、定期考查の成績 60～80%，作品点・平常点 20～40%の配分で評価を行います。 【教材について】 模擬問題集・検定受験料については、一括徴収金から支出します。 【実習について】 ・講義、実習ともに情報処理室で行います。必要な教材は指定された場所に保管してください。 ・検定について、全商ビジネス文書実務検定1級を7月と11月、全商情報処理検定(ビジネス情報)2級を1月に受験予定です。確実な合格とするため、休み時間や放課後を有効に活用して練習に励みましょう。 【教材費について】 ・5,500 円の教材費が必要です（内訳：模擬問題集、検定受験料 など）。→ 一括徴収金で徴収します。 【学習のすすめ方について】 ・授業ごとに示される、学習計画に従って時間内に指示された内容まで進めることができるよう、時間配分を考えて実習に臨みましょう。 ・学習はパソコンを使った実技中心になります。問題集や過去問題等で繰り返し練習を行い、技術を習得しましょう。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
服飾手芸	[家庭]

履修学科	総合学科
履修学年	第3学年
履修単位	2単位
教科書	
副教材	家庭科問題集（被服編）他

科目目標
家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、創造的な手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 手芸の種類と特徴及び変遷、各種手芸の技法などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 手芸の美的価値及び製作工程に関する課題を発見し、手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 手芸品の製作を目指して自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点			
				①	②	③	④
1学期	4	・オリエンテーション 1 刺繍 SDGs 9, 12 ① 刺繍の種類と特徴 ② クロスステッチ ③ フランス刺繍 材料・用具 図案の考案と写し方 基本ステッチ 仕上げ	・実習内容や授業の進め方を説明します。 ・刺繍には様々な種類があること理解し、各詩集の特徴を見本や各種資料を見て、具体的に把握する。 ・今日の刺繍の代表的なフランス刺繍の製作を通して刺繍の知識を深め、各自が工夫を凝らした創作活動が行えるようにする。 ・各自でテーマを決め、基礎的知識・技法を生かした作品を製作する。				
	5			○	○	○	○
	6	④ 自由作品の製作					
	期末考査						○
2学期	7	2 染色 SDGs12, 15 ① 染色と染料の種類 ② 主な染料の染色法 化学染料 天然染料	・染色の種類と特徴を理解する。 ・化学、合成染料の違いを理解する。 ・繊維や染料の種類、組み合わせによって染色方法が異なることを理解する。 ・図案の選択、染め方など基礎的な技術を習得し、染色と染料の種類に適する材料の選択ができるようにする。 ・絞り染め・型染めの基礎的作品を作る。				
	9	③ 絞り染め作品製作					
	10	④ ステンシル作品製作					
	11	3 編み物 SDGs12 ① 編み物の基礎 編み物の種類と特徴 製図・ゲージ等 ② かぎ針編みの基本技法	・編み物の種類と各特徴を理解し、用途に応じた技法を考える。 ・糸や用具の正しい基礎知識を習得し適切な選択が出来る。 ・作り目や基礎的な編み方、記号を理解する ・かぎ針編みの基礎的な技法を習得し、具体的な製作に応用できるようにする。	○	○	○	○
	期末考査						○
	12	③ 棒針編みの基本技法 ④ 自由作品の製作	・棒針編みの基礎的な技法を習得し、具体的な製作に応用できるようにする。 ・各自でテーマを決め、基礎的知識・技法を生かした作品を製作する。	○	○	○	○
3学期	1						
卒業考査							○

評価の観点 ①関心・意欲・態度

②思考・判断・表現

③技能

④知識・理解

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・手芸全般についての関心を持ち、その技術向上をめざして主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けているか。 ・講義、実習に積極的に取り組んでいるか。	・手芸全般の基礎的・基本的な知識と技術をもとに、服飾への活用を想定した創造的な素材作りを表現できたか。	・手芸全般に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を活用しているか。	・手芸全般に関する基礎的・基本的な知識を身に付けているか。
【評価の対象】 ・授業への参加態度 ・作品の提出状況や完成度、創意工夫	【評価の対象】 ・定期考査 ・作品完成度、創意工夫	【評価の対象】 ・作品完成度、創意工夫	【評価の対象】 ・定期考査 ・作品

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
【評価方法】 ・授業や実習への取り組み、検定への取り組み、態度（出席状況、忘れ物）を評価します。 ・学期ごとに、定期考査の成績 30～60％、作品点・平常点 70～40％の配分で評価を行います。 ・作品が期限内に提出されない場合は、該当学期の成績は欠点とします。 【教材について】 道具・材料代については、一括徴収金から支出します。 【実習について】 ・講義、実習ともに被服実習室で行います。必要な教材は指定された場所に保管してください。 【教材費について】 ・3,000 円の教材費が必要です（内訳：刺繍糸、染料、毛糸など）。→ 一括徴収金で徴収します。 【学習のすすめ方について】 ・授業ごとに示される、学習計画に従って時間内に指示された内容まで進めることができるよう、時間配分を考えて実習に臨みましょう。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
課題研究	[家庭]

履修学科	総合学科
履修学年	第3学年
履修単位	4単位
教科書	
副教材	※ 課題内容に即したテキスト等

科目目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上や、社会を支える生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。
- (2) 生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- (3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点			
				①	②	③	④
1 学期	4	・オリエンテーション ・テーマ設定 年間計画作成 SDGs 8, 9, 12	・課題研究の意義を理解します ・課題を設定し、年間計画を作成します ・年間計画に沿って学習活動を展開します ・これまでの研究の成果をまとめ、中間報告を行います				
	5			○	○	○	○
	6						
	7						
2 学期	9	・学習活動 ・最終報告 ・課題研究発表会準備	・年間計画に沿って学習活動を展開します ・これまでの研究の成果をまとめ、最終報告を行います ・これまでの研究の成果をまとめ、発表会への準備を行います				
	10			○	○	○	○
	11						
	12						
3 学期	1	・課題研究発表会	・研究のまとめとして、研究発表会を行います	○	○	○	○

評価の観点 ①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③技能 ④知識・理解

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・テーマに関心をもち、積極的に授業に取り組んでいるか ・テーマについて独創的な観点から課題解決に取り組んでいるか	・テーマについて論理的に考え、適切な考察が出来ているか ・研究の成果を適切にプレゼンテーションできるか	・これまでの学習内容を発展させた学習活動が展開できているか	・これまでの学習内容を適切に理解し、応用できたか ・実際の場面に応用できる転移性のある知識と技術を身に付けることができたか
【評価の対象】 ・授業への参加態度 ・作品等の提出状況や完成度，創意工夫	【評価の対象】 ・プレゼンテーション ・作品等の完成度，創意工夫	【評価の対象】 ・作品等の完成度，創意工夫	【評価の対象】 ・レポート ・作品 ・プレゼンテーション

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
・実践的な学習活動を通し，技術面の向上を図ります。目標を高くもって実現に向けて大いに努力してください。 ・授業では座学や実習を行います。忘れ物をするとその授業だけでなく，後の実習にも影響を及ぼす恐れがあります。毎時間，参考資料やファイル等をきちんと持参してください。 ・このシラバスは，年度当初の年間計画を基に作成されたものです。よって学習した内容の定着度によっては，学習計画の内容や進捗等が変更されることがあります。